



世界に誇る 高松盆栽

盆栽というと、日本では年配者の趣味とイメージされがちですが、海外では日本文化の一つとして性別や年齢に関わらず親しまれています。そこで盆栽の魅力を再発見すべく香川県高松市を訪ねました。

幹肌

盆栽の正面は、幹がしっかりと見える面です。良い幹肌は、大木のような雄大さを感じさせます。他にも根張りなど根元回りも見所がたくさん。同じものは一つとしてありません。

容姿

盆栽の形は、両手を広げているようだったり、一方向に傾いていたりと様々。樹形の調整のため針金かけを行うことも。シルエットの美しさに着目してみましょう。

こう見たらいいんだ!

盆栽どこを どう見るか

時代の古さ

樹齢を重ねるほど値段も高額になります。幹肌に刻まれた割れや模様から長い年月に思いをさせてみる楽しみがあります。



高松盆栽の魅力

高松盆栽は、松盆栽が有名で、成長したものを仕立てていくのではなく、苗から育てるのが特徴です。鬼無・国分寺という狭い地区内に60軒もの盆栽園があるのは全国でもここだけ。盆栽園を周遊できるのも魅力かと思えます。両地区一体が「盆栽のまち」といえます。

高松盆栽の歴史

約200年前の江戸時代・文化年間の頃、山に自生していた松を鑑賞用に鉢植えしたのが高松盆栽の起源とされます。薪に用いるために適宜伐採されていたので、新たな芽が出やすく、山には若く美しい松が多くありました。水はけがよい当地の土壌、そこに果樹の育成などで培われた接ぎ木や剪定技術が加わり日本一の産地として成長してきました。

盆栽園三代目 尾路さんに聞く

高松盆栽の今と未来

尾路悟さん

尾路旭松園3代目園主。香川県盆栽生産振興協議会会長。農学部大学院、メーカー勤務を経て、40歳のときに家業を継ぐ。



海外から見た 高松盆栽

海外の盆栽愛好家は、植物を使った芸術として楽しんでおり、老若男女さまざまに親しまれています。海外からはるばる高松に来られる方も増えており、その中には鬼無に滞在後、盆栽ショップ兼カフェを開業したフランス出身の方もいると聞きます。今後は、盆栽をアニメのように世界中に親しまれる文化にしていきたいです。

高松盆栽は 生産から販売まで

高松盆栽は、全国的にも珍しく生産から販売まで一貫して行っています。中でも松盆栽苗の国内シェアは約8割を占め、野菜のように畑で栽培しています。そうした風景が、鬼無・国分寺では日常となっています。



高松盆栽の郷

2020年4月にオープンした高松盆栽の発信拠点。盆栽や道具の購入はもちろん、盆栽教室などのイベントも開催しています。ネット通販からも購入可能。
(<https://ja-takamatubonsainosato.com/>)

☎087-874-2795
香川県高松市国分寺町国分353-1
8:30~17:00
(※2023年9月より9:30~17:00)
料金: 入場無料
休業: 年末年始
アクセス: 高松権紙ICから車で約10分
駐車場: 有

「BONSAI」は世界共通語

明治以降、盆栽は万国博覧会でたびたび披露され、1989年に初の世界盆栽大会が埼玉県大宮市(現さいたま市)で開催。高松市では、2011年に日本初開催のASPACアジア太平洋盆栽水石大会や2014年の高松盆栽大会に多くの外国人盆栽愛好家が来日し、盆栽の魅力を堪能しました。今やBONSAIは世界の共通語となっています。



盆栽の歴史

盆栽は、約2000年前に中国で始まったとされており、「盆景」と呼ばれていました。日本には、平安時代ごろに渡来したとされ、室町時代には足利義政、江戸時代には徳川家光も盆栽を愛好したといわれます。明治時代には、樹形の珍しさよりも、自然景観としての盆栽を重要視するようになります。今では基本的技術とされる針金整枝法も、明治時代に確立しました。明治の元勳・大隈重信など政界にも愛好されるなど、大正、昭和を経て諸外国との交流が進む中で、日本独自の芸術文化として世界に伝わっていききました。

